

複合経営／水稻、小麦、かぼちゃ、ブロッコリー、キャベツ／省力化・高収益作物の導入
農業体験を通じた個販や野菜の直売による経営の多角を実現
～有澤 賢太郎（北海道石狩郡当別町）～

経営体の概要

事業実施前：平成5年
基幹作物：水稻、小麦

経営面積：20.3ha

事業実施後：令和4年

基幹作物：水稻、小麦、かぼちゃ、ブロッコリー、
キャベツ、直売用野菜

経営面積：29.7ha

土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

【事業実施前】

- 用水不足、深水かんがい等用水手当がなく、水管理に苦慮。
- 用排水施設の老朽化等が進行し、維持管理に多大な費用労力。

平成5年
支線用水路の老朽化状況
（当別町内）



【事業実施後】

- 国営当別土地改良事業（平成6年～平成29年）により用排水路及び揚水機場が整備され、用水の安定供給により生産性が向上。
- 関連事業による大区画ほ場では自動操舵トラクターの導入による作業効率の向上と、高収益作物（かぼちゃ、ブロッコリー等）を拡大導入し輪作体系を確立。個販や野菜直売に取り組む。

営農改善、経営転換等のポイント

①省力化・経営規模拡大

本事業による用水の安定供給、関連事業によるほ場の乾田化が図られたことにより、水稻の作業時間が大幅に軽減。

また、基幹用排水施設の整備を契機とした、関連事業のほ場整備により0.2ha区画から0.5～2.5ha区画となり、自動操舵トラクター導入による施肥散布軽減、代かきの掛合わせも減り、作業時間の軽減が図られるとともに精神的負担（ストレス）も解消。

作業効率が向上したことにより経営規模を拡大。



自動操舵装置搭載

②高収益作物の導入

省力化に伴い、小麦の作付拡大と新規にかぼちゃ、ブロッコリー、キャベツの栽培を開始。

高収益作物のかぼちゃ、ブロッコリー、キャベツはセル苗での育苗と定植後のかん水等に用水を利用し、かぼちゃは8月上旬の一斉収穫により水稻の収穫作業との競合を回避している。



ブロッコリー、キャベツ栽培

③流通・販売の工夫

都市近郊の立地条件を生かし、幼稚園の農業体験（田植・稲刈・旬の野菜を味わう）を受入れ、その家庭に精米を個別販売。札幌市内の量販店で「もぎたて野菜」を6月下旬から10月下旬まで4戸共同で出荷しており、直売用野菜の販路拡大に取り組んでいる。

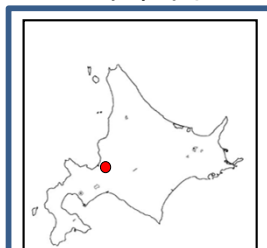


直売用野菜：ズッキーニ等

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：北海道石狩郡当別町
受益面積：3,324ha
事業期間：平成6年度～平成29年度
事業目的：用水改良、排水改良
主要工事：貯水池1箇所、揚水機3箇所、
用水路30条L=53.0km、排水路1条L=5.1km

位置図



当別地区

<問い合わせ先>

北海道開発局
農業水産部農業計画課
計画第1係
電話：011-709-2311
(内線5522)

(令和5年度調査時点)